

# 「使える製品」「使えない製品」

## 高齢者住宅にキッチンが必要か

高齢者住宅に使われる製品の中で、私どもの設計で既製品よりも特注品を制作している割合が多いのがキッチンです。体が不自由になるとともに、料理を自分で作ることが減ってきます。高齢者住宅でも比較的元気な方を対象とした住宅では、普通のキッチンを設置している例もあります。その場合でも、共用の食堂があり、部屋での料理は簡単なものしかない住み方の方も多いためです。このように、高齢者住宅の居室に必要な機能のうちで、台所機能は一番変化の大きいものです。

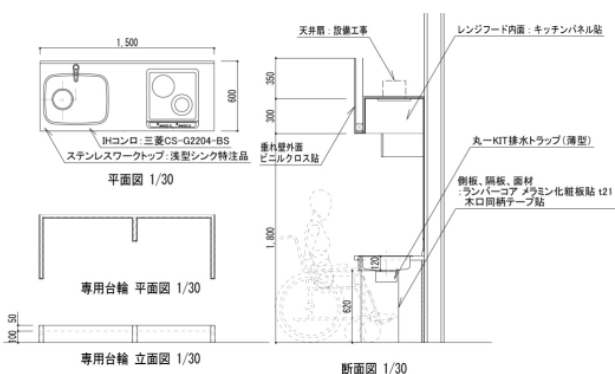
変化に対応できない既製品キッチン

ところが、既製品のキッチンは、当然徐々に使わなくなるといふ変化に対応はできませんし、毎日料理を作らない生活をされる方には、無用の長物となります。高齢者住宅の事業計画の中で、キッチンの仕様をどのようにするかは毎回大きなテーマとなります。

## ミニキッチンの制作

高齢者住宅のミニキッチンは制作してもそんなにコストは高くなりません。キッチンはその事業の内容によって、形は違ってきます。そのために、毎回制作することが多いのです。

図1は最近の例です。



図一

ステンレスワークトップは浅型の特注品を使っています。排水トラップは薄型製品を使います。制作としては難しいところはありませので、是非製作されることをお勧めします。

この施設は比較的元気な方を対象としていますので、このようなキッチンを作りましたが、あまり料理をしない方が多い場合はどうすればよいでしょうか。私たちは特養などの要介護度の高い方の施設には TOTO フェアリーシリーズやマーブルライトカウンターを使ってきました。

## TOTO「フェアリーシリーズ」洗面台

洗面台をキッチンに使用するとき、まずクリアーしないといけないのは、ゴミの処理です。洗面台とキッチン流しで違うのはゴミ受けがあるかどうかです。

洗面台で皿が付いているのは TOTO 製品だけです。TOTO はこの皿はキッチン仕様ではないので、補償はできません



んという姿勢ですので、使用する側はそこを理解して使わないといけないのですが、私はこの製品は本当に「使える製品だ」と思っています。

図三 TOTO 目皿



図二 居室に TOTO マーブライトカウンター



### 洗面らしくない洗面ボウルを探して

フェアリーシリーズはこのような長所があるのですが、そのボウル形状がいかに洗面用の形をしています。

そこで現在施工中の特養で採用したのが、ABC 商会のラピードという製品です。洗面ボウルと洗面カウンターが一体となる製品ですが、この洗面ボウルにゴミ取り付目皿を付けてもらいました。

洗面のヘアーキャッチャー付き排水目皿は高齢者にとって、実は使いにくいものです。口内に残っている食べかすが多く詰まりやすいからです。洗面台もできればこのようなゴミ取りつきの目皿をつける方が便利です。このボウルに同じ人造大理石でカウンターを作り、茶碗などをおけるようにします。

図四 洗面ボウルにゴミ取りつき目皿をつける



### 洗面キッチン

私たちはかなり早い時期から「洗面キッチン」ということを考えてきました。これはユニット型特養の設計の中で出てきた考えです。

ユニット型特養では、居室内で料理をすることはありません。したがって当初は居室内に洗面台を設計したのですが、訪問された家族の方がお茶を沸かしたり、少しお元気な方はご自分で湯呑を洗ったりできたほうが良いというご希望がありました。でもそのために、ミニキッチンを入れるのは、コスト的にも、スペースからみても無駄が多く、何か考えられないかというところから出てきたのが、「洗面キッチン」です。洗面台は必ずいりますから、そこでキッチンの要素を加味できればよいのです。

図五最初に制作した洗面キッチン



最初に制作したのが、図五です。トップをステンレスにし、車いすが入れられるような浅型のボウルを使っています。ボウルの横に、小さなスペースを作り、ヒーターがおけるようにしています。

このステンレス製の「洗面キッチン」でできた問題はステンレスのボウルをつかって歯磨きをおこなうことが感覚的に問題ないかということです。お年寄りの世代では、昔は洗面台そのものがなく、流しで顔も洗っていたこともあり、抵抗はないということでしたが、若い世代ではこのステンレスシンクでは顔が洗いにくいという意見も出ました。

### インテリア性を高めた洗面キッチン

ボウル本体を陶器にする案も検討したのですが、物を落とすとひびが入るため、人造大理石を採用し、インテリア性を高めるためにカウンタートップを木目調と

することにしました。

このタイプはまだ実現していませんが、高齢者住宅事業にとっては一つの解決方法だと思っています。

現在、高齢者住宅に必要な「製品」が一般に多く発売されだしていますが、居室内のキッチンはその高齢者住宅事業の対象とする人の体の具合や、変化への対応度によって、特注品を作ることが、もう少し続きそうです。

図六 木目の洗面キッチン



### 砂山憲一

すなやま・けんいち

1972年 SANT-LUC DE TOURNAI 建築学校(ベルギー)留学、1975年 京都大学工学部建築系学科修士課程修了、1981年 株ゆう建築設計設立。

主な著書に「医療・介護・建築関係者のための高齢者の住まい事業企画の手引き」(学芸出版社)。最近の執筆に日経ヘルスケア別冊 拡大するシニアリビングVOL3「あなたの病院は増改築できますか? 建築家から見た療養病床転換の問題点」、『病医院のための高齢者住宅開設マニュアル』【老人保健施設部分担当】(ともに日経BP社)

